

ゲートの家

都市型住宅に「門」を造る

「門」は古来より家の顔、そして異空間を繋ぐ出入口の意味をもつ柱と梁の構造体の連続は家の象徴として現代都市に個性を主張し街並みと住空間を結ぶ「ゲート」となる

設計：アーネストアーキテクト株式会社

4層吹抜けの階段ホールは、上下の空間を結ぶ「光の柱」として機能する。昼は多くの自然光を採り入れ、外観から連続する白い列柱の間から差し込む光が時間の変化を写し出す。夜は照明を受け、昼とは違った表情を見せる。列柱が住み出す影が幻想的な雰囲気となった。



閑静な住宅街に、柱と梁が連続した構造体。S邸は個人住宅とは思えないシンボリックな外観が印象的な住まい。柱と梁の構造体を、街並みと住空間の接点となる「ゲート」とした。都市型住宅の典型である、街並みと遮断されプライバシーが守られた空間構成とは異なり、「ゲート」の奥行きにより、街と空間を共有しながら個人的な住空間を作ることを目指した。

右上/4階建ての高さと白い柱の連続が強いインパクトとなった外観。ゲートの連続は歩むごとに外界からプライベートスペースへと空間が徐々に変化する。
左上/外部エントランスを入ると、ゲートをくぐる形のインナーアプローチ。様々な光の演出が愉しめる。
下/階段ホールから見た2階リビング・ダイニング。空間の仕切りをガラスにすることでゲートから差し込む光を家全体で感じることができる。



2階リビングから南側に続くテラス。ゲートからの光と風を感じながら
道路に面した硝子壁によって、プライバシーが守られている。



上ノ3階メインベッドルーム。リビング同様
階段スペースにガラスの開閉部で面し、様々
な光の表情を家全体で一体的に感じることが
できる。ベッドルームと連続した形でバスル
ームなどの水廻りを設けホテルライクな仕上
がりとした。
下ノキッチンには南側のテラスから北側の庭へ
と南北の空間を結び、敷地いっぱいに奥行き
を感じられるスペース。1枚の絵のように縁
取られた緑を愉しみながら作業ができる。



光と風の「ゲート」に都会との語らいを愉しむ

Earnest architects

設計：アーネストアーキテクト株式会社

お問い合わせ・資料請求
〒108-0014 東京都港区芝 5-5-1
TEL:03-3769-3333
URL:<http://earnest-arch.jp>
(資料請求番号 000)